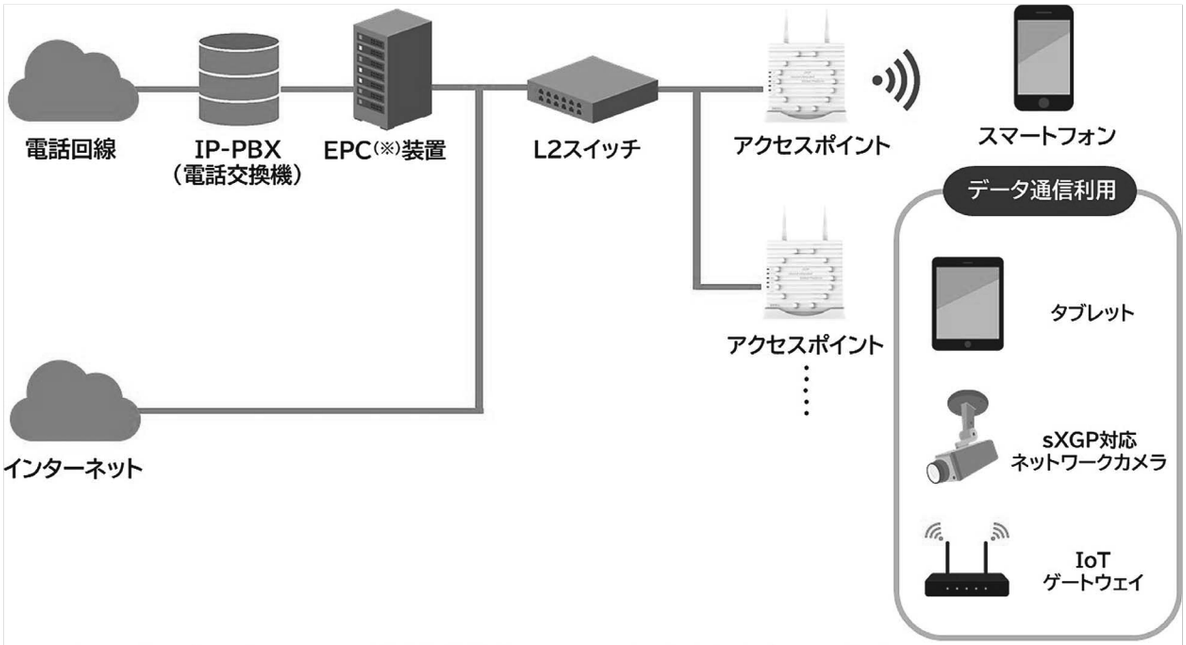
西菱電機

プライベートLTEシステム販売開始

次世代通信規格sXGPに対応

sXGPシステムのイメージ



※EPC：Evolved Packet Core高速通信規格「LTE」のアクセス網を収容するコアネットワーク

西菱電機は、ソフトバンクの子会社、ビー・ビー・バックボーンと販売代理店契約を締結し、PHSに代わる次世代通信規格sXGPに対応したプライベートLTEシステムの販売を新たに開始した。同システムの構築、運用を通して、病院や工場などが抱える効率化や生産性向上といった、課題の解決をサポートする。

sXGPは、PHSの1・9ギガヘルツ周波数帯を利用した免許不要の自営通信用TD－LTE規格。病院や工場などで利用されてきた自営PHSの後継サービスとして注目されている。これまでの音声通信に加え、データ通信が可能なプライベートネットワークを構築できるほか、LTE方式のSIM認証の採用で、秘匿性が高く信頼性をも兼ね備えた通信が可能だ。

また、スマートフォンやネットワークカメラ、センサー、IoT機器などさまざまな機器をワイヤレスかつセキュアに接続することができる。外線・内線通話のほか、カメラやチャットなど、スマホのメリットを生かしたさまざまなアプリケーションを利用することができ、スマホによる利便性向上が図れる。

オンプレミス型のため、災害時のネットワーク輻輳（ふくそう）や規制といった影響を受けずに利用できる。

公衆PHSが終了する一方で、自営PHSは現在も市場に数多く残っている。特に、医療業界や製造業などではその置き換えはもとより、通信インフラの高度化が求められている。同社では自営PHSの置き換えとして同システムを提案する。

「自営PHS市場は360万台以上。うち製造業は100・8万台、医療・福祉は75・6万台。この市場で約半分のシェアがあり、ボリュームゾーンから攻める」と同社通信システム事業部の大﨑充弘担当は話す。

現在、導入が進んでいるのが、工場内でのAGVオペレーションや病院内でのナースコール連携など。病院ではWi－Fi基地局を20台から2台に削減するなど、コスト削減につながっている。ほか、災害時の事業継続が必要なユーザーやPHSの継続利用に課題を持つユーザー、弱電エリアで混信などの課題を持つユーザーへの導入事例も発生している。同社では関連する事例に基づき、関係機関などへ提案活動を強化。また、展示会などへ出展し、感触をつかむ活動も行っている。

大﨑担当は「パートナー企業との連携や展示会出展で、PRを強化していきたい」と語った。